

新藤通弘「ベネズエラ地方選挙でチャベス派が圧勝」

「野党が全面的に参加した地方選挙でチャベス派が圧勝」

11月21日、ベネズエラ全土で2017年から5年ぶりに、23の県知事選、335の市長選などがおこなわれました。2017年の地方選挙では野党も参加しましたが、2020年の国会議員選挙では主要野党が欠席しました。今回は再び野党が全面的に参加し、新型コロナ禍と経済困難見舞われ、与野党の対話が進む中で、与野党の政策について国民に信を問う選挙となりました。

選挙は、事実上、与党の左派政党の統一組織、大祖国戦線（GPP, Gran Polo Patriótico）、野党の右派のベネズエラ統一要綱（PUDV, Plataforma Unitaria de Venezuela）、中道の民主同盟（AD, Alianza Democrática）によって争われました。

大祖国戦線（Gran Polo Patriótico）は、ベネズエラ社会主義統一党（PSUV）、皆のための祖国（PPT）、変革のための同盟（APC）など、左派の9政党が参加、ベネズエラ統一要綱（Plataforma Unitaria de Venezuela）は、民主団結会議MUDを構成する主要野党、民主行動党（AD）、大衆意志党（VP）、正義第一党（PJ）、新時代党

（NT）など右派の6党が参加、民主同盟（Alianza Democrática）は、2017年度より与野党対話を進めてきた野党勢力、民主行動党（AD）の一部、変革希望党（MEC）、

革新前進党（AP）、市民変革運動党（CMC）など中道の9党が参加しています。与野党の全面的な対決選挙となったわけです。

選挙には、登録有権者21,159,846人（総人口33,192,835人）のうち42.29%が参加しました。その結果、23の県知事選のうち、20県でGGPのベネズエラ社会主義統一党が、2県で民主団結会議が、1県で地域政党（FV）が勝利しました。チャベス派が、コロナ禍で高インフレが続く中、野党との全面的な論戦の中で2知事増やしたことは、国民の強い支持を受けていることを示しています。335の市長選では、GPPが205市を、MUDが59市を、民主同盟が37市を、その他の政党が21市を制しました。

今度の選挙を2017年の地方選挙の結果と比較しますと、チャベス派が県知事選で2知事伸ばし、市長選では103市で減っています。野党は79増やしています。

選挙種類	有権者数	投票者数	投票率%	チャベス派	野党		
得票数		得票率%	得票数	得票率%			
17.10.15	18,082,00	11,035,89	61.03	5,814,903	55.07	4,983,626	44.31
県知事	6	8		18知事		5知事	
定数23							
17.12.10	19,597,24	9,281,257	47,36	6,589,692	71	2,691,564	29
市長	8			308市長		17市長	
定数325							

投票率の減少傾向とともに、この結果をどう見るかは、今後詳細に分析したいと思いません。

なお、選挙の正当性については、300余の国際監視人、87の政治組織が参加しており、また67,000人の野党の候補者が立ち会っています。ベネズエラの保守系の新聞でも不正選挙という報道はありません。今度の選挙では、フアン・グアイドー氏は、すでに今年1月からEUは大統領としては認めず、ほとんど存在感がありませんでしたが、22日ブリンケン米務長官は特別声明を発表し、「今回の選挙は不正であり、アメリカは認めない、マドゥーロにベネズエラ国民への弾圧を止めるように呼びかけるとともに、グアイドー暫定大統領の努力を支持する」と述べ、内政干渉の発言を行っています。

現在、メキシコにおいて、ノルウェー政府の仲介で与野党の対話が進められています。これまで与野党の対話を壊し、対立を深め、ベネズエラの政情を混乱させたのは、アメリカ政府の干渉であることは明らかです。外国からの介入を排し、ベネズエラ国民による対話による解決を国際社会は、支援しなければなりません。

(2021年11月23日新藤通弘)